



「みち」

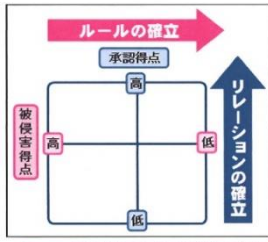
令和 4 年 12 月 19 日 発行

アランの『幸福論』より

「Q-U の理解と活用」

今年も残すところ半月あまり、2 学期の評価も終わる頃でしょうか。

さて、須賀川市は春と秋の 2 回にわたり学級集団アセスメントとして「Q-U」を実施しています。先月の第 3 回校長会でも「安全・安心の学校づくりの一つとして Q-U を全職員で分析、活用しましょう。」と取り上げられました。児童生徒は自分の学級をどうとらえているのでしょうか。学年やブロックの先生方と Q-U の分布図を確認しながら現状を把握し課題を見つけ、今後の学級経営に生かしてほしいものです。



Q-U の分布図は縦軸のリレーション(上にいくほど自分を認めてもらえている)と横軸のルール(右に行くほど基本的ルールが守られている)で表されています。基本的ルールとリレーションのバランスが取れていると居心地のよい学級に感じられるのです。

「幸せだから笑うのではない。笑っているから幸せなのだ」

「嘆きも悲しみも、鳥と同じ。ひょいっと留まっては、とびさっていく。」

「望んでいることはすべて、人を待っている山と同じ。自らよじ登っていかねばならないのだ」

世界の三大幸福論の一つ。アランの幸福論です。自分の心が決める幸福への道。年末年始のちょっとした時間に読んでみてはいかがでしょうか。心が軽くなります。



親和的なまとまりがあるが、ここに、入れない子が浮いてしまうことがある。児童生徒の主体的な活動を多く取り入れるとよい。その一方で、外れた児童生徒の個別指導が必要となる。

かたさが見られる。ルールは定着している、承認されている児童生徒が限定されがち。特定の児童生徒がターゲットとなりいじめが起きやすい。教師は結果ではなく、プロセスに目を向け、評価の多様化が必要。叱咤叱責は逆効果。さりげない声掛けを心がけることが大切。

一見すると、自由でのびのびした集団。しかし、学級内のルールが確立されておらず、私語や児童生徒の小さなトラブルが見られる。発言力の強い児童生徒に影響されがち。学級内の最低限のルールを明確にし、授業の構成に「型」「ルーティン」を取り入れ、メリハリをつける。

かたさ、ゆるみの状態から荒れ始め、集団のマイナス面が出始める。教師のリーダーシップは徐々に機能なくなる。児童生徒の間でお互いを傷つけあう行動が出てくる。ルールに沿ってやるべきことを行う習慣化が必要。フラストレーションに対するカウンセリングを行う必要が出てくる。

学級に不満を感じ始める児童生徒が多く、小グループ同士のトラブルが増える。日々の授業が成立しにくい。担任一人で対応することなくチームで対応。一対一の関係づくりから始め、個々に取り組むことのできる課題を多くし、頑張りを認める機会を増やす。

児童生徒同士のかかわりが希薄なため、大きなトラブルは起きにくい、一人一人が勝手な行動をしがち。教師の適切なリーダーシップ(押しつけではない、気付け方)で教師が中心となって児童生徒同士がかかわる場面を設定する。褒める視点を定め、行動目標を方向付けるルールづくりを行う。

いかがでしたか？Q-U は児童生徒の状態を知る大切なアセスメントです。結果が戻ってきたらファイルに綴っておくだけではもったいない資料です。児童生徒の『実態を把握し、課題を見つけ、支援につなげる』があってはじめてアセスメントは生かされます。やりっぱなしのアンケートにならないよう、もう一度みんな Q-U の分布図を見合いながら、児童生徒の顔を思い浮かべ、支援の一つを探し出してください。声掛け一つでも変わります。担任任せにせず、チーム学校となって Q-U を活用してください。

タブレット端末の活用が広がっています。

令和2年度末に各学校にタブレット端末が導入され、少しずつ活用が広がっています。計画訪問等で授業を参観させていただくと、児童生徒が意欲的にタブレット端末を活用している姿が見られます。また、授業だけでなく、各学校で実施しているアンケート調査などの校務にも積極的に活用し、教職員の働き方改革(多忙化解消)にも活用されています。

～ タブレット端末を活用した実践 ～

<実践1>

一人一台のタブレット端末を利用して、図形を構成する要素に着目し、合同な三角形をかくための条件を理解する授業を行いました。条件を探すために、プリントや Google Classroom で配信した資料を活用させ、児童一人一人が自分のペースで、自分で選んだ資料をもとに学びを進めることができました。定規やコンパスを使用するのが苦手な児童も、タブレット端末を使用することで意欲的に学習に取り組むことができました。



<実践2>

デジタル教科書をタブレット端末からプロジェクターで黒板に投影し、児童に視覚的に確認させることができました。教科書と同じものがカラーで大きく表示されることで、児童の理解を支援することができました。また、班で話し合ったことを、デジタル教科書の写真を使い説明することができました。



<実践3>

生徒のノートを写真で写し、それを用いて教師がスライドを作成しました。スライドは、生徒のタブレット端末で共有され、他の友達のノートを参考に考えることができました。2人に1台のタブレット端末を使用することで、友達のノートについてペアで話し合いを行い、学び合うことができました。班以外の生徒の考えも参考にすることができ、考えを広げることができました。



「教職員対象の ICT 教室」を設置しました。

市内の教職員が気軽に ICT についての情報交換・共有する場として、「教職員対象の ICT 教室」を設置しました。この ICT 教室には、各種マニュアルの掲載、参加者同士の情報交換・共有、参加者からの質問など、ICT に関するさまざまな情報を掲載しています。また、Google Meet を活用して、「オンライン ICT 教室」も実施しました。各校の取り組みや課題などについて参加者で話し合いを行いました。



「教職員対象の ICT 教室」は、須賀川市内の教職員であればだれでも参加することができます。参加を希望する場合は、各校の管理職に参加の方法を確認してください。

今年も残すところわずか。コロナ禍の状況はまだまだ予断を許しませんが、冬休みには二学期の疲れを癒し、心穏やかに新しい年を迎えられますようご祈念申し上げます。

